読んだ本「ダンゴムシ」

（文・写真：今森 光彦　アリス館）

川崎市立南百合丘小学校二年　片桐（かたぎり） 佑真（ゆうま）

いっぱい大はっ見ダンゴムシ

ぼくは、『やあ！出会えたねダンゴムシ』という本を読みました。この本には、ダンゴムシのびっくりするところがいっぱい書いてありますが、ぼくのお気に入りは、三つあります。

一つ目は、ダンゴムシの顔です。ぼくは、ダンゴムシを見つけたとき、いつもゆびでさわってあそんでいるけれど、ダンゴムシの顔を見たことはありませんでした。なぜかというと、ダンゴムシは、すぐ丸くなってしまって、顔をみせてくれないからです。この本には、ダンゴムシの大きな顔のしゃしんがのっていて、目がはなれていることや、口にはがはえていることがわかります。ぼくは、何となくかわいいけれど、ちょっとこわい顔だと思いました。

二つ目は、ダンゴムシのだっぴです。ぼくは、だっぴは知っていたけれど、上半しんと下半しん分けてだっぴすることは知りませんでした。しかも、ダンゴムシはだっぴした後、白いぬけがらを食べるそうです。自分がぬいだからを食べるのは、ぼくがぬいだふくを食べるみたいで、ふしぎでした。

三つ目は、ダンゴムシがこうかくるいであることです。ダンゴムシの足は十四本あって六本ではないのでこん虫ではないとわかっていたけれど、見た目がまったくちがうえびやかにと同じなかまなんてしんじられませんでした。

ぼくが一年三組の時、クラスでダンゴムシをかっていて、一週間くらいでしんでしまいました。でもこの本では、三か月もかっていたので、同じクラスだったしょうまくんに教えてあげたいです。しょうまくんとは今はちがうクラスだけど、きっとうまくんと虫が大すきなしょうまくんなら、この本を読んでつぎは、元気なダンゴムシをそだてられると思います。この本はいっぱい大はっ見があっておすすめです。